

公益社団法人日本天文学会 代議員懇談会メモ

日 時：2013年3月21日（水） 12:00-13:00

場 所：埼玉大学春季年会会場（D会場）

出席代議員：岡村、渡部、柴田、奥村、田村、河合、半田、市川、馬場、杉山、佐藤、牧島、太田、山田、林、縣、櫻井、寺澤、芝井、富阪、百瀬、長尾、（以上22名）

欠席代議員：海部、小久保、常田、望月、梅村、吉田（道利）、井上、吉川、福井、観山、土居、吉田（直紀）、藤沢（以上13名）

また、中村・本原庶務理事、熊谷・松尾会計理事、宮田年会理事、西野事務長が出席した。

なお、櫻井会長と奥村・山田副会長は代議員を兼任している。

I. 報告

I-1 理事会（2013年3月20日）報告（中村）

学会の支出のうち、月報印刷費が占める割合が高いため、経費削減について検討を継続中であること、PASJとOxford University Pressとの製作販売提携の手続きを進めていることなどの各事業担当理事の近況報告を行った。2013年度の各種委員は2012年度と基本的には同じであるが、林忠四郎賞の委員長を前理事長（林忠四郎賞の委員長は前理事長が就任することが慣例となっているため）に修正し、それに伴い、委員候補1名の入れ替えを行った案が理事会に諮られ、承認されたことが報告された。

I-2 開催中の年会および今後の年会準備進捗状況（宮田）

今のところ大きな問題はなく、順調に進んでいることが報告された。

現在までに約720名が参加、講演総数約680件。初日に開催された日韓合同セッションも順調であった。

I-3 学術会議関連報告（杉山）

主にマスタープラン3年ごとの改訂に伴う研究公募についての報告がされた。現在、大型計画の公募が行われているが、すでに進行中の計画を確実に申請するようにという点が全体に十分に伝わっていなかったため、申請について多少の混乱があったようであるが、各計画とも申請に向けての準備は着々と進めているようである。今回、採択件数は1分野10個以下、各領域1個程度と予想される。天文学コミュニティは、物理学分野（物性一般物理、素粒子原子核、天文学宇宙物理の3領域）において、天文学宇宙物理分野からは3個程度と予想される。

中規模計画について、採択可否の決定理由などを選定委員会から文書などで公表してほしいとの要望が出た。なお、委員会の議事録はウェブ公開されていない。

I-4 IAU 報告 (岡村)

12月25日にIAU分科会が開催された。IAUのDivision Structureの変更に伴う会員の登録のし直しと確認が行われたことが報告された。今期のCommission Presidentとなった山岡均氏と細川瑞彦氏、及びIAUとITUとのリエゾンである大石雅寿氏を分科会のオブザーバーに加えることが承認された。学術会議が負担している、国際学術団体への加入分担金の支払いが予算の制約から厳しい状態になっている。

場合によっては、近い将来学会が分担金の一部を負担するよう要望が出る可能性も無いわけではない。IAUへの分担金は、学術会議が負担している団体の中でも上位であるため、日本天文学会員のIAUへの積極的な関与が望まれる。現状は、各commissionにおいて、今期は日本人のvice presidentがいない。これは、次期presidentがいなくなることを意味しており、積極的にcommissionに関与してほしい。今回から全メンバーが役員投票に参加する方式となった。まずは、steering committeeの候補者リストに日本人が入ることが重要である。報告資料は学会のホームページに掲載する。

II. 懇談

II-1 早川基金の運用方針

前回の理事会で早川基金の運用方針の修正を検討してはどうか(早川基金は個人の方から多額の寄付を頂き、現在のところ残金が多い)という意見があり、代議員からの意見を伺った。

2~3カ月海外で研究活動を行うHayakawa fellowのようなものを考えても良いかもしれない。(櫻井)

研究奨励賞が資金的に厳しい(寄付など無い場合、5年ほどで枯渇)。研究奨励賞は若手の育成と密接に関係するので、研究奨励賞の資金として使えないか。(河合)

現在の早川基金は、原則として渡航費か滞在費のどちらかしか出さないと応募書類には書かれているので、両方出すようにするなど、まずは早川基金の補助基準を修正し、その上で、必要に応じて他の用途について考えるのがよいのではないか。(半田)

天文学会として用途のプランを作って寄付者の了解を取りたいという旨、寄付者の方には以前伝えている(岡村)。

早川基金の制度をいじるというよりも、もっと広い視野に立って若手サポートをどうするかという問題とともに考えたほうが良いのではないか。(百瀬)

新たな資金集めなども考えたほうがよい。(岡村)

II-2 その他

1. 代議員総会等での議論事項

代議員総会では日本天文学の将来に関わる重要事項の議論をしたほうがよい。学術会議にお任せ気味に感じる。それで良いのか。他の学会（たとえば地球惑星学会）では、将来計画について議論しているところもある。（芝井）
現在は、学術会議の下に IAU や物理分野、天文というような階層構造になっているので、その構造を変えない限り、学術会議が音頭を取って将来計画を議論するという現在のやり方を変えるのは難しいのではないか。（岡村）
地球惑星学会などは、将来計画の議論は学術分野の将来計画というよりも探査計画の検討に特化している（渡部）。

2. PASJ の図や文章の著作権

大阪大学では博士論文を大学のリポジトリにおいてウェブ公開することになった。博士論文には投稿論文の図や文章が掲載許可を取らず掲載されることが行われる場合が多く、対応に苦慮している。図や文章の使用許可の手続きを簡便化できないか。（芝井）

雑誌によって対応は異なるが、PASJ の場合は図を転載する場合には許可が必要。（牧島）

出版元のポリシーもあるが、学会の雑誌の場合は学会のポリシーもあり、著作権の対応は一般に複雑である。（河合）

どういった場合に許可が必要か分かりにくいので簡単な著作権の表を作成してほしい。物理学会ではそういう取り組みが行われている。（寺澤）

3. 年会の感想

予稿集の内容とかなり違う講演が少々目立つ。予稿〆切が早いことが原因ではないか。もう少し、予稿〆切を遅く設定できないか。（富阪）

予稿集のクオリティにも問題があるものがある。少なくともこれらが改善されるように運営側でできることはやった方が良くはないか。（富阪）

現在の天文月報印刷スケジュールでは、これ以上遅く設定できない。（宮田）

現在の予稿集は1アブストラクトにつきA4の1/3ページ程度であるため、乏しい内容の研究あるいは完成度が低い研究でもとりあえずアブストラクトは書いて提出可能である。その点から変えることを考えても良いのではないか。たとえば、物理学会では、簡単なアブストラクトを提出したのち1ページ程度のアブストラクトを提出している。（寺澤）

過去のしがらみにとらわれず、現在の情報伝達環境等の技術革新も踏まえて、（たとえば予稿集の電子化、プログラムの月報掲載をやめる等）得失を適宜評価して改革できる点が無いか理事会で検討してほしい。（半田）

4. 会費について

会費が高いので、会費の設定について理事会で検討してほしい

一度実務理事から数値データを出してもらってから議論したい。

会費と会費以外の部分で取っているお金について良く吟味、調査してもらいたい。

準会員と正会員の待遇差についても検討してもらいたい。

2013年3月21日

文責：中村文隆庶務理事